

2020年度事業報告

I 会議

- 1 監査会 2020年6月1日 JA全農京都 会議室
2019年度事業実施状況および会計処理の執行状況について監査をうけ、適正と認められた。

2 理事会

- (1) 第1回理事会 2020年6月12日 書面理事会
第1号議案 2019年度事業報告並びに収支決算について
第2号議案 2020年度会費の賦課並びに徴収方法について
第3号議案 役員改選について
第4号議案 肉用子牛生産者補給金制度生産者積立金の返還について
第5号議案 JAS認定事業廃止に伴う残預金の処理について
第6号議案 定時総会の開催について
第7号議案 付帯決議
報告事項 「京都JAビル」完成に伴う事務所移転について
- (2) 第2回理事会 書面理事会 2020年6月29日
第1号議案 会長理事、副会長理事、専務理事の選出について
- (3) 第3回理事会 2021年3月29日 上鳥羽会議室
第1号議案 2020年度収支補正予算について
第2号議案 2021年度事業計画並びに収支予算について
第3号議案 2021年度資金調達及び設備投資の見込みについて
第4号議案 2021年度借入金最高限度額並びに資金預入先金融機関の決定について
第5号議案 諸規程の一部改正について
第6号議案 減価償却引当資産の一般会計への戻入について
第7号議案 付帯決議
(報告事項)
・2020年度事業進捗状況の報告について

3 総会

- (1) 2020年度定時総会 2020年6月29日 京都JAビル特別会議室
第1号議案 2019年度事業報告並びに収支決算について
第2号議案 2020年度会費の賦課並びに徴収方法について
第3号議案 役員改選について
第4号議案 付帯決議

4 会員の状況

区分	会 員 数				備 考
	2019年度	増	減	2020年度	
正会員	16	0	0	16	
準会員	10	0	0	10	
計	26	0	0	26	

II 事業の実施状況

[公益目的事業]

1 肉用子牛生産者補給金制度（農畜産業振興機構 補助事業）

令和2年度から第7業務対象期間（5年間）がスタートし、前業務対象期間の積立金を生産者及び農畜産業振興機構に返還処理を行った。今年度は子牛相場の大きな下落もなく補給金の交付発動は無かったが、保証基準価格の引き上げに伴い、黒毛和種で1頭1,200円から1,600円となり、生産者の積立負担額が1頭あたり100円上がり400円となった。その他肉専種については、生産者積立1頭あたり3,100円から1,600円上がり4,700円となる。また、その他肉専用種は交付金発動があり、交付対象頭数25頭に対し、567,500円が交付された。

(1) 保証基準価格、合理化目標価格

保証基準価格：肉用子牛の再生産を確保することを旨として定める。

合理化目標価格：肉用子牛生産の合理化によりその実現を図ることに必要な生産費を基準として定める。

品種区分	保証基準価格	合理化目標価格
黒毛和種	541,000円	429,000円
その他肉専	320,000円	253,000円
乳用種	164,000円	110,000円

(2) 生産者積立金の造成に係る契約肉用子牛頭数 (単位：頭)

期 間	黒毛和種	その他肉専用種	乳用種	合 計
2020年1月	40	1	0	41
2	36	4	0	40
3	31	0	0	31
4	26	5	0	31
5	30	0	0	30
6	41	0	0	41
7	49	2	0	51
8	37	2	0	39
9	42	2	0	44
10	34	3	0	37
11	39	4	0	43
12	46	1	0	47
合 計	451	24	0	475

(3) 生産者積立金の造成状況 (単位：円)

区 分	1頭当り 積立金額	頭数	負 担 区 分			
			生産者 (1/4)	京都府 (1/4)	機 構 (1/2)	計
黒毛和種	1月～3月1,200	107	32,100	32,100	64,200	128,400
	4月～12月1,600	344	137,600	137,600	274,500	550,400
その他肉専	1月～3月12,400	5	15,500	15,500	31,000	62,000
	4月～12月18,800	19	89,300	89,300	31,000	357,200
計		475	274,500	274,500	549,000	1,098,000

(4) 2020年度肉用子牛生産者補給金交付単価一覧表 (単価：円)

区 分	黒毛和種	その他肉専用種	備考
令和2年4月～6月	—	—	
令和2年7月～9月	—	—	
令和2年10月～12月	—	—	
令和3年1月～3月	—	—	
令和2年4月～3年3月	—	22,700	肉専用種は年間での発動

(5) 2020 年度肉用子牛生産者補給金交付実績

(単位：円)

区 分	黒毛和種		その他肉専用種		備考
	頭数	交付金額	頭数	交付金額	
令和2年4月～6月	—	—	—	—	
令和2年7月～9月	—	—	—	—	
令和2年10月～12月	—	—	—	—	
令和3年1月～3月	—	—	—	—	
令和2年4月～3年3月			25	567,500	肉専用種は年間での発動
計			25	567,500	

交付実績総計 25頭 567,500円

1-1 運営適正化事業（農畜産業振興機構 補助事業）

肉用子牛生産者補給金制度の業務の適正な運営を図るため、事務委託先における対象子牛の個体登録、販売保留の確認等の業務を委託し、電算システムの活用や事務委託先での書類点検を実施して適正な業務推進に努めた。

事業費 483,280円

1-2 指定協会運営体制支援事業（農畜産業振興機構 補助事業）

市中金利の低下に伴い、基本財産の運用益が減少しているため、独立行政法人農畜産業振興機構から支援を受けて事業運営の円滑化を図った。

事業費 4,835,150円

2 肉用牛肥育経営安定交付金制度事業（農畜産業振興機構 補助事業）

TPP11の発効日（2018年12月30日）をもって、これまでの牛マルキンは新たな制度である肉用牛肥育経営安定交付金制度として、畜産経営の安定に関する法律（昭和36年法律第183号）第3条の規定に基づく肉用牛の交付金の交付等業務へと移行した。

(1) 事業の内容

毎月の肥育牛1頭当り粗収益（全国平均）が生産費（全国平均）を下回った場合に、肥育牛生産者に補填金を交付する。

- ① 抛割割合 生産者：国＝1：3
- ② 業務対象年間 2018年12月30日～2022年3月31日
- ③ 補てん割合 1頭当の標準的販売価格と標準的生産費との差額分の9割

④ 負担金単価

(単位：円/頭)

品 種 区 分		積 立 金		
		生産者	機 構	計
肉専用種	2019年度単価	6,000	18,000	24,000
	2020年度単価	50,000	150,000	200,000
交 雑 種	2019年度単価	17,000	51,000	68,000
	2020年度単価	20,000	60,000	80,000
乳 用 種	2019年度単価	19,000	57,000	76,000
	2020年度単価	19,000	57,000	76,000

(2) 生産者積立金納付頭数及び積立金納付額

(単位：頭、円)

区 分	年 月	肉専用種	交 雑 種	乳 用 種	計
2019年度 第4四半期	2月	197	0	0	197
		0	0	0	
	3月	200	0	1	201
		0	0	0	
2020年度 第1四半期	4月	0	0	0	0
		—	—	—	
	5月	2	0	0	2
		—	—	—	
	6月	1	0	0	1
		—	—	—	
第2四半期	7月	0	0	0	0
		—	—	—	
	8月	0	0	0	0
		—	—	—	
	9月	0	0	0	0
		—	—	—	
第3四半期	10月	0	0	0	0
		—	—	—	
	11月	0	0	0	0
		—	—	—	
	12月	0	0	0	0
		—	—	—	
第4四半期	1月	0	0	0	0

		—	—	—	
	2月	0	0	0	0
		—	—	—	
	3月	0	0	0	0
		—	—	—	
当期造成頭数計		400	0	1	401
		0	0	0	
負担金納付額	負担金単価	6,000	17,000	19,000	—
	積立額	2,400,000	0	19,000	2,419,000

※上段は2019年4月適用単価分（法制化）、下段は2020年4月適用単価（納付猶予）

(3) 交付金の交付状況

(単位：戸、頭、円)

区 分		対象戸数	交付頭数	交付金単価	交付金額
肉 専 用 種	2019年度 1月期	0	0	0	0
	2月期	0	0	0	0
	3月期	11	158	101,436.3	16,026,930
	2020年度 4月期	12	171	228,570.3	39,085,515
	猶予牛（国費のみ）		1		171,427
	5月期	11	100	169,671.6	16,967,155
	猶予牛（国費のみ）		2		254,506
	基金不足（国費のみ） 6月期	11	165	202,432.5	25,051,015
	7月期	11	201	※1 99,289.8	19,957,244
	8月期	10	203	※1 90,983.25	18,469,596
	9月期	11	177	74,299.95	13,151,083
	10月期	0	0	0	0
	11月期	0	0	0	0
	12月期	0	0	0	0
	1月期	0	0	0	0
	2月期	0	0	0	0
	3月期	0	0	0	0
	計	77	1,178	—	149,134,471
	交 雑 種	2019年度 1月期	0	0	0
2月期		1	4	24,121.8	96,487
3月期		0	0	0	0

	2020年度	4月期	1	5	148,130.1	740,650
		5月期	1	5	146,220.3	731,101
		6月期	1	5	190,413.9	952,069
		7月期	0	0	180,387.9	0
		8月期	0	0	153,076.5	0
		猶予牛(国費のみ)				
		9月期	1	5	163,894.5	614,604
		10月期	0	0	※1 98,601.3	0
		11月期	1	2	※1 59,524.2	119,048
		12月期	1	4	※1 21,843.675	87,374
		1月期	0	0	※1 17,069.4	0
		2月期	1	9	※1 61,906.275	557,156
		3月期	1	2	※1 19,994.175	39,987
		計	9	41	—	3,938,476
乳用種	2019年度	1月期	0	0	47,339.1	0
		2月期	1	2	39,319.2	78,638
		3月期	0	0	54,562.5	0
	2020年度	4月期	0	0	52,145.1	0
		5月期	0	0	46,925.1	0
		6月期	0	0	48,078.9	0
		7月期	0	0	39,031.2	0
		8月期	0	0	51,616.8	0
		9月期	0	0	39,206.7	0
		10月期	0	0	37,969.2	0
		11月期	0	0	38,144.7	0
		12月期	0	0	38,791.8	0
		1月期	0	0	43,453.8	0
		2月期	0	0	48,483.9	0
		3月期	0	0	54,922.5	0
		計	1	2	—	78,638
合計	2019年度	1月期	0	0	—	0
		2月期	2	6	—	175,125
		3月期	11	158	—	16,026,930
	2020年度	4月期	13	177	—	39,997,592
		5月期	12	107	—	17,952,762
		6月期	12	170	—	26,003,084

	7月期	11	201	—	19,957,244
	8月期	10	203	—	18,469,596
	9月期	12	182	—	13,765,687
	10月期	0	0	—	0
	11月期	1	2	—	119,048
	12月期	1	4	—	87,374
	1月期	0	0	—	0
	2月期	1	9	—	557,156
	3月期	1	2	—	39,987
	計	87	1,221	—	153,151,585

(4) 肥育安定基金の管理状況

(単位：頭、円)

区 分		肉専用種	交 雑 種	乳 用 種	合 計	
期首残高(A)		23,718,694	866,577	103,774	24,689,045	
2020 年度 造成 額	基金造成頭数	3	0	0	3	
	生産者 積立金	単価	6,000	17,000	19,000	—
		金額	18,000	0	0	18,000
	合 計(B)		18,000	0	0	18,000
	果実収入(C)		128	4	0	132
補てん金交付額(D)		18,019,911	630,079	19,660	18,669,650	
機構返還額 (E)		0	0	0	0	
生産者無事戻し額 (F)		0	0	0	0	
期末残高 (A)+(B)+(C)-(D)-(E)-(F))		5,716,911	236,502	84,114	6,037,527	

3 肉用牛肥育経営安定交付金制度 (肉用牛肥育経営安定推進)

(農畜産業振興機構 補助事業)

肉用牛肥育経営の安定を図るため肉用牛肥育経営安定交付金制度の基金造成並びに補てん業務等を円滑に推進する次の事業を実施した。

(1) 事業の内容

- ① 生産者負担金の徴収及び機構補助金の交付請求により、肥育安定基金を造成して補填の発動に備えるとともに、月毎に肥育牛1頭当りの標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合に、肥育牛生産者に補填金交付を行った。
- ② 適正な事業執行のため、事務委託先等への調査指導を実施した。

- ③ 事業の円滑な推進のため、電算システムを活用して事業対象登録牛の管理等を実施した。

事業費 5,618,589 円

4 京都産和牛肥育経営緊急対策事業（京都府 補助事業）

新型コロナウイルス感染症の影響によるインバウンドや外食需要の激減等により、出荷価格が下落し、収益が悪化している京都産和牛の肥育農家の経営を緊急に支援することで、生産基盤の維持を図った。

事業費 41,962,800 円

5 京都府養豚経営緊急対策事業（京都府 補助事業）

新型コロナウイルス感染症の影響による外食需要の激減等により、府内産豚が出荷抑制を受け、販売価格の下落が生じているため、養豚農家を支援し、経営を支えることにより生産基盤の維持を図った。

事業費 2,574,078 円

6 肥育牛経営等緊急支援特別対策事業（中央畜産会 受託事業）

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、インバウンド需要を含む外食需要が減少により牛肉価格が下落し、経営が悪化している肉用牛肥育経営が経営体質の強化のための取組を行う場合に奨励金を交付した。

事業費 35,944,139 円

〔収益事業〕

1 地域畜産経営支援体制整備事業（京都府 受託事業）

畜産経営体の経営管理能力向上及び生産技術の高度化指導に加え、畜産経営に関する情報の提供を行い、経営感覚に優れた経営体の育成を図った。

事業費 3,448,000 円

（1）畜産経営体支援指導研究会等の開催

回数	開催年月日	出席者数	構成機関	調査・研究・検討内容
第1回	2020, 10, 27	17	京都府、窓口相談員、非常勤コンサルタント団、関係機関、本協会	支援指導に係る対象経営の選定、指導内容等の検討、生産技術・経営管理技術・流通消費・環境等の改善指導方策等の調査・研究

(2) 地域における相談窓口の設置

配置実績 延べ101日 配置人数：南丹（1名）、中丹（2名）、丹後（1名）

(3) 畜産経営技術の総合支援指導

① 畜産コンサルタント団員の組織

畜産コンサルタント団の組織状況

区 分	員数（人）	備 考
総括畜産コンサルタント	2	本協会職員
畜産コンサルタント	1	本協会職員、役員
非常勤畜産コンサルタント	18	畜産指導機関、学識経験者
計	21	

② 個別支援指導の実施

個別指導実施件数

(件)

区 分	経営改善指導	経営管理 技術指導	生産技術指導	計
酪 農	4	4	4	12
肉 用 牛	4	4	20	28
養 豚	0	2	2	4
養 鶏	0	0	3	3
計	8	10	29	47

(4) 畜産経営関係情報のホームページ（HP）による提供

畜産経営体を支援するため、京都府のホームページ「京都の畜産ひろば」の更新、拡充により畜産経営関係情報を提供した。

- ・ ホームページ「京都の畜産ひろば」の管理・運営
- ・ 市況情報をデータベース化して提供

1-1 畜産コンサルタント等職員設置事業（京都府 補助事業）

高度な技術を基礎とした生産性の高い畜産経営の健全な発展を支援するため、畜産経営診断を実施できる畜産コンサルタントを設置した。

補助金 567,000円

1-2 総括畜産コンサルタント職員設置事業（京都府 補助事業）

畜産経営診断等に関する高度な技術と豊富な知識を有する職員を配置し、畜産経営技術指導体制を整備強化するため総括畜産コンサルタントを設置した。

補助金 2,155,832 円

2 畜産振興補助事業（地方競馬全国協会 補助事業）

地域畜産支援体制整備事業(畜産コンサルタント事業)、地域畜産理解醸成事業、地域畜産ブランド創出事業、馬事・畜産普及啓発推進事業を実施することにより、担い手の育成・確保、府内畜産物の消費者への普及啓発、地域ブランド畜産物の生産体制の確立と普及啓発、地方競馬に対する理解の醸成と畜産の普及啓発の推進を図った。

補助金 5,933,000 円

3 乳用牛群検定関連事業（国、京都府、家畜改良事業団 補助事業、委託事業）

乳用牛群の能力向上により酪農経営の安定を図るため、乳用牛群検定組合を組織し、酪農家及び検定員を対象に牛群検定の普及、検定員の技能の向上、検定農家における牛群検定情報の活用の促進を図るとともに、乳用牛群検定推進会議を開催し円滑な取り組みに向け情報の共有を行った。

また、乳用種雄牛の後代検定の的確な推進を図るため調整交配に取り組んだ。

(1) 牛群検定組合の概要

(単位：戸)

	南丹牛群 検定組合	中丹牛群 検定組合	丹後牛群 検定組合	合 計
組 合 員 数	9	12	4	25
自家検定農家数	8	0	0	8
立会検定農家数	1	12	4	17

(2) 事業の概要

① 京都府畜産振興対策推進事業（酪農生産性向上・奨励対策）（京都府）

個体ごとのデータの把握による乳用牛群の能力向上を通じて酪農経営の安定を図る取組を支援した。

補助金 2,508,000 円

(単位：円)

組 合 名	事 業 費	うち補助金	備 考
南丹牛群検定組合	1,720,584	726,501	検定員謝金、旅費、乳成分 検査、電算センター負担金 等の支援 等
中丹牛群検定組合	2,404,634	1,070,083	
丹後牛群検定組合	1,227,814	529,416	

本協会	282,752	182,000	検定用通信機器の通信費、 維持管理費用等
合計	5,635,784	2,508,000	

② 牛群検定補助事業（家畜改良事業団 委託事業）

酪農経営の生産性向上を図るため、調整交配や後代検定データの収集等を実施した。

(単位:円)

事業名	事業費	うち補助金	内容
乳用種雄牛後代検定事業	43,834	43,834	調整交配精液の保管輸送等
合計	43,834	43,834	

乳用牛の遺伝子情報を用いたゲノミック評価の元となる未經産牛のSNP検査
サンプルの収集及び検査機関への送付を実施した。

(単位:円)

事業名	事業費	うち補助金	内容
乳用牛改良増殖推進事業 (遺伝的能力向上対策)	29,838	28,800	後代検定娘牛等のSNP 検査用サンプルの採取と 送付
合計	29,838	28,800	

4 酪農ヘルパー事業

毎日の搾乳作業等周年拘束性が強い酪農経営における労働負担の軽減及び休日の確保
等を図り、ゆとりある持続性の高い酪農経営を実現するため、酪農ヘルパーの雇用環境
の整備、酪農家の傷病時における酪農ヘルパーの利用、酪農ヘルパー利用組合の組織運
営体制の強化等を総合的に推進した。

(1) ヘルパー利用組合の概要

(単位;戸、人)

組合名	農家数	雇用ヘルパー数	摘要
南丹酪農ヘルパー利用組合	10	2	
丹波酪農ヘルパー利用組合	11	3	
中丹酪農ヘルパー利用組合	13	2	
丹後酪農ヘルパー利用組合	5	1	
合計	39	8	

(2) 事業費の内訳

① 酪農経営安定化支援ヘルパー事業（農畜産業振興機構 補助事業）

ア 傷病時の利用の円滑化

ヘルパー利用組合が互助組合を作り、傷病等により搾乳できない酪農家のヘルパー利用料等を援助する場合に要する経費に補助した。

イ 酪農ヘルパー利用組合の強化等

ヘルパーの損害賠償保険の加入、広域利用調整等に要する経費を補助した。

(単位：円)

区 分	傷病時利用の円滑化		利用組合の強化等		計	
	事業費	うち補助金	事業費	うち補助金	事業費	うち補助金
南丹酪農ヘルパー利用組合	0	0	323,306	161,653	323,306	161,653
丹波酪農ヘルパー利用組合	0	0	262,100	131,050	262,100	131,050
中丹酪農ヘルパー利用組合	0	0	1,033,981	516,990	1,033,981	516,990
丹後酪農ヘルパー利用組合	0	0	84,660	42,330	84,660	42,330
本協会	0	0	486,167	486,167	486,167	486,167
合 計	0	0	2,190,214	1,338,190	2,190,214	1,338,190

② 酪農ヘルパー事業円滑化対策事業（独自基金 補助事業）

ヘルパーの出役補助として、自動車の借上げに要する費用を補助した。

(単位：円)

区分	事業費	うち補助金	備 考
南丹酪農ヘルパー利用組合	560,000	280,000	
丹波酪農ヘルパー利用組合	720,000	360,000	
中丹酪農ヘルパー利用組合	1,596,000	798,000	
丹後酪農ヘルパー利用組合	660,000	330,000	
合 計	3,536,000	1,768,000	

4-1 酪農経営安定化支援ヘルパー事業委託業務

酪農経営安定化支援ヘルパー事業に係る酪農ヘルパーの利用実態調査及び推進指導を行った。

事業費 59,700 円

5 畜産・酪農収益力強化整備対策事業（機械導入事業）（中央畜産会 委託事業）

中央畜産会が資金管理団体として行う、畜産・酪農家への機械導入事業について、府内の畜産クラスター協議会から「畜産クラスター計画」に基づいて機械導入（1/2リース）の要望があり、府域の窓口機関として事業参加要望書を取りまとめ、京都府と協議のうえ中央畜産会への申請を行った。

委託費 1,385,223 円

6 畜産・酪農生産力強化整備対策事業（家畜生産性向上対策事業）（中央畜産会 委託事業）

中央畜産会が実施する、家畜の遺伝的能力を最大限に発揮させるための家畜生産性に係るデータ収集に参画し、畜産コンサルタントで収集したデータの提供を行った。

委託費 269,570 円

7 畜産・酪農収益力強化整備対策事業（全国推進事業）（中央畜産会 委託事業）

畜産クラスターに係る取組を推進するため、先進的な経営を対象とした経営内容の調査を行い、中央畜産会にデータの提供を行った。

委託費 160,000 円

7-1 酪農労働省力化推進施設等緊急整備推進事業（中央畜産会 委託事業）

中央畜産会が実施する、酪農家における労働負担軽減・省力化に資する機械導入や施設整備推進の取組と連携し、府域窓口機関として事業推進会議の開催、現地関係機関への普及説明、連絡調整を行った。

委託費 378,990 円

7-2 畜産経営体生産性向上対策推進事業（ICT等機械装置等導入）（中央畜産会 委託事業）

中央畜産会が実施する酪農・肉用牛経営における ICT 等の新技術を活用した省力化機械装置の導入の推進の取組と連携し、府域窓口機関として事業推進会議による普及説明、京都府、関係機関・団体等との連絡調整を行った。

委託費 273,000 円

8 地域における肉用牛生産基盤強化等対策事業（農畜産業振興機構 補助事業）

肉用牛の生産振興対策として、肉用牛ヘルパー事業に取組み飼養管理費用、子牛せり市での子牛輸送費や市場引出費用などの振興対策について積極的に支援した。

事業実施団体及び事業概要

(単位：戸、円)

区 分	実施団体名	事 業 内 容	事業費	
				うち補助金
1 肉用牛 ヘルパー推進	京都丹の国肉用牛 ヘルパー利用組合	肉用牛ヘルパー利用推進	318,010	144,550
2 肉用牛 推進指導	京都府畜産振興協会	計画策定、推進指導費	83,144	83,144
合 計			401,154	227,694

肉用牛ヘルパー活動推進費は、ヘルパー利用組合が1/2負担。

9 貸付事業指導等事業（畜産近代化リース協会 委託事業）

（財）畜産近代化リース協会が貸付けを行ったホイルローダー、堆肥攪拌発酵機、パイプラインミルクカー、バックホー、自動給餌機、バキュームカーの設置個所5カ所において、最終借受者に対し施設・機械の確認、利用状況及び保守管理等の現地調査、指導及び新規開拓に係る調査を行った。

事業費 129,998 円

10 肉豚経営安定交付金制度に係る事務委託（農畜産業振興機構 受託事業）

2018年12月30日のTPP11協定発効により、これまでの豚マルキン（養豚経営安定対策事業）は新たな法律制度である肉豚経営安定交付金制度に移行した。本制度の基本的な仕組みは従前の事業と同じであり、基金造成並びに補てん業務等の適正かつ円滑な事業推進を図り、制度の趣旨、内容の周知徹底、養豚事業者等に対する指導、その他必要な支援に努めた。

(1) 肉豚経営安定交付金制度委託業務

① 事業の内容

ア 生産者負担金の徴収及び機構補助金の交付請求の指導を行った。

イ 事業の円滑な推進を図るため、生産者を個別に訪問し事業内容を説明し周知を図った。

ウ 適正な事業執行のため、生産者への調査指導を実施した。

事業費 39,690 円

(2) 肉豚経営安定交付金制度に係る事務委託事業

① 契約頭数と生産者負担額 (第1業務対象年間)

(単位：戸、頭、円)

年度	契約戸数	契約肉豚頭数	販売実績頭数	負担金単価	積立額
2018年度1月～3月	3	3,596	3,189	400	1,438,400
2019年度4月～3月	2	13,894	14,557	400	5,557,600
2020年度4月～3月	2	13,600	14,270	400	5,440,000
計	—	31,090	32,016	—	12,436,000

※2019年度4月～9月までの契約戸数は3戸

② 補てん金交付実績

(単位：頭、円)

期 間	補てん金単価	対 象 頭 数	補 て ん 金 交 付 金 額
第1四半期	0	0	0
第2四半期	0	0	0
第3四半期	0	0	0
第4四半期	0	0	0
合 計	0	0	0

11 京のこだわり畜産物ブランド化推進事業 (京都府 委託事業)

バイオセキュリティの向上とこだわりの生産活動に取り組む畜産農場を登録する「京のこだわり畜産物生産農場等登録制度」を推進するため、登録制度の周知・普及拡大、登録審査(現地確認、登録審査会等)等に取り組んだ。

事業費 420,000円

12 養豚経営安定対策補完事業 (農畜産業振興機構 補助事業)

地域の養豚業における母豚の能力を向上させるため、純粋種豚等の導入を実施する地域の生産集団等に対し支援を行い、肉豚の生産性向上により生産コストの低減を図った。

事業費 1,526,655円

13 優良肉用子牛生産推進緊急対策事業 (農畜産業振興機構 支援事業)

子牛価格が下落した場合の支援事業として、令和2年5月～令和3年3月までに市場販売した子牛が全国平均価格で1頭あたり60万円を下回った場合に(1万円/頭又は3万円/頭)の奨励金が交付される事業を実施した。今年度の交付はなかった。

事業推進費 159,040円

14 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業・生産基盤拡大加速化事業
(全国肉用牛振興基金協会 奨励金事業)

和牛繁殖生産基盤を拡大する目的で、畜産クラスター計画に位置付けられた生産者に増頭数（246 千円/頭）を奨励金交付する事業を実施した。

(単位：円)

	取組主体（クラスター協議会名）	参加農家数	増頭数	奨励金合計額
1	J A 京都和牛繁殖部会クラスター協議会	13	32	7,872,000
2	にのくに和牛低コスト生産クラスター協議会	3	6	1,476,000
3	京丹後和牛振興協議会	1	9	2,214,000
合 計		17	47	11,562,000

事業費（奨励金交付額 11,562,000 円 委託費契約額 586,900 円）

15 畜産関係団体調整機能強化事業

生産者等からの相談に応じるための専門家の派遣や助言、相談に応じるための職員のスキルアップ、相談に応じるための会議等開催した場合の費用など、地方競馬全国協会の補助を受けて府内畜産振興に資する目的に事業を実施した。

委託費 1,100,000 円

16 事務局受託事業

本協会の幅広い事業活動の推進、組織の強化を図るため、府内の畜産関係団体からの受託事務および事業を実施した。

(1) 京都府養鶏協会事務局	受託費	300,000 円
(2) 京都府馬事畜産振興協議会事務局	受託費	0 円
(3) 全国和牛登録協会 京都府支部	受託費	700,000 円
(4) 日本ホルスタイン登録協会 京都府支部	受託費	70,000 円
(5) 京都府家畜人工授精師協会事務局	受託費	70,000 円
(6) 京都府養豚協議会事務局	受託費	1,080,000 円